

## オンライン原水爆禁止世界大会 NY スピーカー紹介

2020年4月16日 日本原水協事務局

2020年4月25日(土)日本時間22:00-24:00のオンライン原水爆禁止世界大会NY発言者は以下の通りです。なお、プログラムの最後に田中熙巳・日本原水爆被害者団体協議会代表委員が「ヒバクシャ国際署名」について発言することと、中満泉国連軍縮担当上級代表の参加が決定しています。

### 和田征子

(日本原水爆被害者団体協議会事務局次長・長崎被爆者)

1歳10ヶ月の時、長崎で被爆。母から被爆当時の状況と体験を聞いて育った。地元神奈川県の被爆者の会での活動を経て2015年より現職。原水爆禁止世界大会のほか、2017年の国連核兵器禁止条約交渉会議、同年バチカンが主催した「核兵器のない世界と統合的軍縮の展望」国際会議、NPT再検討会議準備委員会などで被爆者として証言し、核兵器の廃絶を訴えてきた。



### シャラン・バロー

(国際労働組合総連合・オーストラリア)

1954年12月12日生まれ。2006年に発足した国際労働組合総連合(ITUC)で女性として初の書記長。

ニューサウスウェールズ大学を卒業後教師となり、教員組合で活動。オーストラリア教員連盟議長を務めたのち、オーストラリア労働組合評議会(ACTU)では2人目の女性議長(2000-2010)となった。

### イマド・キヤエイ (IGDグループ・イラン)

社会経済的発展、平和構築、環境問題の国際的専門家グループのネットワークである学際的グローバル開発グループ(IGD Group)の主任。専門分野は中東の平和と安全保障。政治・ビジネス・市民社会組織のリーダーに、政治的リスク、安全保障政策、紛争防止・仲裁の分野での戦略的アドバイスをおこなっている。米・イラン関係に焦点を当てた非営利・無党派の教育機関であるアメリカ・イラン評議会(AIC)の政策顧問を務めている。共著「大量破壊兵器のない中東」が5月に発行予定。



プリンストン大学ウッドロー・ウィルソン公共国際問題学部で中東の地政学・

安全保障問題を研究し、コロンビア大学国際紛争解決センターで助手を務めた経験もある。全国・国際メディアによく登場し、国際会議での講演もおこなっている。コロンビア大学で国際関係学修士号を取得。

### リズ・テオハリス牧師

#### (貧しい人々のキャンペーン・アメリカ)

1976年生まれ。「貧しい人々のキャンペーン：道義的復興への国民的よびかけ」で、ウィリアム・バーバー牧師と並んで共同議長を務める。ユニオン神学校宗教・権利・社会正義センター長。長老派教会公認牧師。ペンシルバニア大学の学生時にホームレス問題にとりくみ始め、2003年に貧困撲滅を目指す草の根組織の全国ネットワークを構築。2013年に宗教・人権・社会正義センターを発足。2017年に「貧しい人々は常にあなた方とともにいる」という聖書の貧困撲滅の呼びかけに沿って出版した著書「常に私たちとともに？イエスが貧しい人々について語った真実」は、長老派教会の推薦図書となった。2019年、貧しい人々のキャンペーン共同議長として「全米緊急真実・貧困遊説」に参加して様々な州を巡り、全米の多彩な貧困層コミュニティが直面する諸問題を告発し、同キャンペーンと地方組織が提案する解決策を訴えた。今年、下院予算委員会で同キャンペーンを代表して証言した。



### カルロス・ウマーニャ

#### (核戦争防止国際医師会議=IPPNW・コスタリカ)

コスタリカ IPPNW の議長。産婦人科医師としてプライマリーケアと特殊ケアに従事した経験から、コスタリカ保健省の医療局長を務めた。医師であるだけでなく、コスタリカ大学で美術を専攻し、現在は医療翻訳者・ビジュアルアーティストとして活動している。コスタリカ外務省ほか、核軍縮問題にとりくむ地方、地域、世界的組織と緊密に協力して活動している。

### シエ・バスティダ

#### (未来のための金曜日・アメリカ/メキシコ)

シエ・バスティダは、ニューヨークを拠点に活動する17歳の気候変動アクティビスト。メキシコで育った彼女は、故郷が干ばつと洪水によって甚大な被害を受けたことで気候変動の影響を目の当たりにした。2015年にNYに移住し、ハリケーン・サンディの被害を目にした後、彼女は行動を起こそうと決心した。



先住民としてのルーツを活かし、地球を大切にしよう世界に呼びかけている。

「気候変動を訴える活動は数十年前に始まったといわれていますが、先住民は数千年も前から地球を守ってきました」と彼女は公共放送サービス (Public Broadcasting Service: PBS) で語った。「私たちは先住民の考え方に立ち返り、今の社会に取り入れるべきです。人間の使命は、生物を搾取することではなく、守る事です。〈私たち人間〉ではなく〈私たち地球〉のことを考えなければいけません」

シエは〈未来のための金曜日〉ムーブメントのリーダーとなり、グレタ (トトゥーンベリ) とともに活躍して仲間を集めた。彼女は今後も市役所や集会でスピーチをおこない、同世代の若者に刺激を与え、世界中に変化を起こし続けていくだろう。

### ジョゼフ・ガーソン

(平和・軍縮・共通安全保障キャンペーン・アメリカ)

長年、アメリカフレンズ奉仕委員会の経済安全保障プログラム責任者を務め、2017年に平和・軍縮・共通安全保障キャンペーンを創立。核兵器廃絶、大国間の緊張、在外米軍基地、国防支出問題に焦点を当てて米国の外交・軍事政策への平和で公正な代替案を組織し啓蒙している。現在、国際平和ビューロー副会長、平和と地球国際ネットワークの共同議長、反 NATO



／反戦争運動の運営委員で、「コリア・ネットワーク」にも参加している。「帝国と核兵器」などの著書があり、アトミック・サイエンティスト誌、ボストン・グローブほかに多くの記事が掲載されている。1984年以来、原水爆禁止世界大会と日本の反核平和・反基地運動との連携・協力を続けてきた。今年4月末、NPT再検討会議に際して開催を準備してきた原水爆禁止世界大会 NY、そして今回のオンライン世界大会の企画責任者。



### ライナー・ブラウン

(国際平和ビューロー=IPB 事務局長・ドイツ)

ドイツ文学、歴史、ジャーナリズムを専攻。1982年から平和運動に積極的に参加し、ヨーロッパへの新型核兵器配備に反対する「クレーフェルト・アピール」事務所で活動。1983年からは平和と持続可能性を目指す科学者の会の事務局長を務め、1991年からは地球的責任のためのエンジニア・科学者国際ネットワーク (INES) に加わる。2004年からは、ベルリンにあるマックス・プランク科学史研究所とマックス・プランク協会で、アインシュタイン記念年に関連した様々なプロジェクトに従事。2006年から2017

年まで、反核国際法律家協会ドイツ支部と反核国際法律家協会の事務局長を歴任。2006年から2012年には、パグウォッシュ会議のドイツ支部であるドイツ科学者協会の事務局長も務めた。

2013年9月からは国際平和ビューロー（IPB）の共同議長。2016年9-10月にベルリンで開かれたIPB世界会議「平和の機運のために軍縮を」を中心となって組織した。2019年より現職。長年にわたり、ドイツの平和運動を代表して発言してきており、ラムステイン米空軍基地反対キャンペーンや反NATOキャンペーンを組織してきた。



#### 高草木博（日本原水協 代表理事）

国際青年学生運動を経て、1984年より原水爆禁止日本協議会事務局で国際活動責任者を務めたのち、2000年より事務局長、2011年より代表理事。国際平和ビューローの執行委員、副会長も歴任。日本の原水爆禁止運動を代表して、数々の国際会議、協議に参加し発言してきた。世界大会 NY の国際企画委員メンバーとして準備に当たってきた。「たかさん」の愛称で、運動に参加する人々の間だけでなく、多くの被爆者から信頼を集め、頼りにされているリーダー。